

石神の丘美術館屋外展示場では、ミヤギノハギの花が咲いています。



石神の丘美術館通信《いしび》

ishibi

2007.10.1 Vol.60

萩といえば「秋の七草」。秋の七草は、山上憶良の歌「秋の野に咲きたる花を指折りかき数ふれば七種の花」「芽子が花尾花葛花瞿麦の花をみなへしまた藤袴朝貌の花」(『万葉集』巻八)に由来しています。「芽子が花」は萩、「尾花」は薄、「瞿麦の花」は撫子、朝貌は「桔梗」を指し、「七種の花」は今という萩、薄、葛、撫子、女郎花、藤袴、桔梗であると考えられています。食用とされる春の七草に対し、眺めて楽しむものとされているとか。秋の野に咲く代表的な花として数え上げられたこれらの植物、あなたはいくつご存知ですか。

企画展示室では、10月20日(土)から「嶋屋征一展 空間へのアプローチ」が始まります。北海道出身の嶋屋さんは、岩手大学学芸学部特設美術科を卒業後、岩手町立川口中学校に美術教諭として赴任。町の画家・齋藤忠誠さんらが中心となって結成した美術団体「エコール・ド・エヌ」に入会し、長年にわたって事務局を務めました。

嶋屋さんの作品テーマは、一貫して「空間とは何か」。平面、立体、インスタレーションなどたくさんの手法によって「空間」の存在を追及し、作品化しています。嶋屋さんが独自に捉えた空間表現の数々をお楽しみ下さい。

嶋屋征一展 空間へのアプローチ

会 期:平成19年10月20日(土)~11月25日(日)
開館時間:9:00~17:00(入館は16:30まで) 会期中無休
観覧料金:一般300円/大・高生200円/中学生以下無料

アートサイト

原の城

岩手県出身の芸術家で私が最も尊敬しているのは、彫刻家の舟越保武先生です。人格、識見のすばらしさはもちろんのこと、先生の作品を高く評価しているからです。

舟越先生との親交は、岩手県民会館での展覧会を取材し、レストラン「公会堂多賀」で先生にインタビューをしたことが契機だったように思いますが、記憶が曖昧なので、はっきりしません。

舟越先生の代表作は、何といても四年の歳月をかけて制作したという「長崎二十六殉教者記念像」でしょうが、残念ながらとに私は長崎に設置されている

その作品の前に立ったことがありません。

ほかに代表作とっていい作品に、「ダミアン神父像」「原の城」「道東の四季・春」などがありますが、私が好きなのは、なかでも「原の城」です。この作品は、島原の乱で敗れたキリシタン武士の亡霊が、草むらからよるよると立ち上がった姿を表現したものです。

この「原の城」は、その造形からいっても、あるいはモチーフからいっても能の世界に通じるものだと考えられます。能に登場する人物の多くは亡霊で、この世に現れて生前のことを語るといって設定になっています。

舟越先生が「原の城」を制作するにあたって能の世界を意識したかどうかは分かりませんが、発想は能の世界に通じるものをもっています。舟越先生は、風の吹く月夜にこの作品を草原

に立たせてみたいと語っていました。

「原の城」は、口を半開きにしています。その口に風が吹き込んで、びょうびょうと音を出すのを聴いてみたいというのです。九月二十五日は中秋の名月でした。雲ひとつない空に燦然と輝いている月を眺めているうちに、「原の城」のことを考えていました。あまりに明るいので月の周辺に星は見えず、孤高の存在としての月に崇高なものを感じました。そういえば満月の夜、田沢湖の湖面に立つ「たつこ姫」の像を見てみたという思いもあります。「たつこ姫」もまた舟越先生の幻想から生まれた作品です。

(芸術監督・六岡 康光)

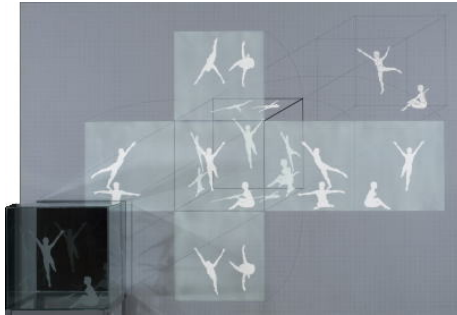
嶋屋征一展 空間へのアプローチ

平成 19 年 10 月 20 日(土) - 11 月 25 日(日)

企画展示室では、10 月 20 日(土)から「嶋屋征一展 空間へのアプローチ」が始まります。この展覧会は、岩手ゆかりの作家の作品を個展形式で紹介する「北の作家」シリーズの一環として開催するものです。

北海道小樽市出身の嶋屋征一さんは、岩手大学学芸学部特設美術科を卒業後、1961(昭和 36)年、美術教諭として岩手町立川口中学校に着任しました。この頃、岩手町沼宮内で結成された美術団体「エコール・ド・エヌ」に入会。長年にわたって事務局を務め、会の活動を支えました。また、岩手県立盛岡短期大学教授、岩手県立大学教授として教育の場にも長く携わりました。

一貫して「空間」をテーマにした作品は、初期の「宙」シリーズに始まり、そこから展開し見えない空間を意識させる「スペース・白」シリーズ、物体の外見と中身、無限の空間を追求した「形相」シリーズ、鏡面に映り込む場を捉えた写真作品「場景」シリーズへと発展して行きます。更に、身体という内空間の流動や音響をテーマにした「Image-Sound」シリーズなど、多彩な手法で「空間」に迫っています。今展では、川口中学校勤務時代の初期作品から最近作までおよそ 40 点をご紹介します。



《形体意識空間 77-3》

162.0×227.0+45.0×45.0×45.0cm

1976-77(昭和 51-52)年

★エコール・ド・エヌ

1957(昭和 32)年、岩手町沼宮内で地元の画家齋藤忠誠らが中心となり結成した美術団体。「集団としての主義・主張を持たない」「作家の所属・作品傾向を問わない」など独自の理念を持つ。名称は、「エコール・ド・パリ」(1920年代、世界各地からパリに赴き活動した画家たちの総称)にあやかったもので、エヌは沼宮内の頭文字Nであると同時に北(Nord)、日本(Nihon)のNであり、更には国際派に通ずるN(National)に発展させようとの意味を含む。

初期は主に沼宮内で活動していたが、会員数を増やしながら盛岡、東京、海外へと場を広げ、1974(昭和 49)年に韓国とフランスで開催した展覧会は、岩手県の美術団体として初の海外展となった。現在も活動を続ける同団体は、今年、結成 50 年目となる。

サルスベリも咲きました (ミソハギ科サルスベリ属/中国原産)



屋外展示場入り口付近に植えてある秋の風物詩、サルスベリの木が今年も花を咲かせました。背景の青空と鮮やかな紅色のコントラストが見る者の目を楽しませてくれます。その名の通り、木の幹は猿でも登れないほど見事にツルツル。漢字の「百日紅」は、花期が長いことから充てられたそうです。

美術館隣接 道の駅/レストラン「石神の丘」情報

このコーナーのお問合せ・ご予約は 道の駅「石神の丘」TEL0195-61-1600まで

旬のきのこが盛り沢山

収穫の秋!道の駅では松茸や舞茸など、たくさんきのこをご用意してお待ちしております。秋の味覚を存分にお楽しみ下さい。



岩手町秋祭り関連 郷土芸能披露

沼宮内セツ踊り

①10/6(土)13:00頃 ②10/7(日)17:00頃
道の駅イベント広場にて開催



沼宮内セツ踊りは、ナギナタや弓、ざるなど7つの道具を持って踊ります。

※当日の祭りの進行具合、天候などによって変更される場合があります

★奥羽牛の ビーフシチュー ★県産地鶏の トマトソース煮込み

もうすぐメニュー
に仲間入り!



秋のコース料理

秋の味覚を存分に楽しめる「秋のコース料理」は、11 月いっぱいまでの限定です。予約制となっておりますので、上記電話番号までお申し込みのうえご来店下さい。【税込 3,150 円】